

国史跡「江戸城石垣石丁場跡」の保存活用に係る照会 (平成30年8月29日)

*「伊教生第131号」(平成29年8月4日付け)で、当保存会の前身であるNPO法人が行った提言(平成29年7月6日付け)に対するご回答をいただいたところですが、その後1年以上が経過しましたことから、当該回答に係るいくつかの事項について照会するものです。

*照会事項の末尾に記載の括弧内は、「伊教生第131号」(平成29年8月4日付け)でご回答いただいた「提言」の番号です。

(1)留田地区の砂浜に仮保存してある刻印石について、その経緯について再確認する旨のご回答をいただいているところですが、再確認した経緯はどのようなものだったでしょうか。(提言2)

合わせて、次の事項につき照会致します。教育委員会は、当該刻印石の然るべき保存の方法等について産業課に協議を投げかけているのでしょうか。また、船揚場の必要な堰について、産業課では、刻印石の代わりとなるものを検討しているのでしょうか。

産業課が主体となり地元との話し合いで現状の状態になったとのご認識ですが、当方の認識としては、地元とは漁業関係者のことであり、船揚場への砂の流入を防ぐために、あるいは河川の流路が船揚場前面にこないようにするために、当該刻印石を堰として利用し、合わせて、刻印石の散逸を防ぐ当面の措置であると認識しております。現地に置かれている石が刻印石のみであることから考えましても、こうした認識に整合性があるのではないかと思慮致します。しかし、これはあくまでも当面の措置であり、宇佐美地区の石丁場遺跡の一部が国史跡に指定された後もこのままの状態にしておくことは、文化財保護行政の観点からは著しく不整合であると思慮致します。

*補足資料⑤参照

(2)国土地理院地図における国史跡の範囲の地図記号について、国土地理院に情報提供するとのご回答をいただいているところですが、その

後、当該区域における国土地理院の地図記号の修正はどうなっているのでしょうか。(提言4)

現時点で国土地理院地図を確認したところ、地図記号は修正されていないように見受けられます。国土地理院への情報提供の後、再度あるいは再々度修正を働きかけたのでしょうか。先の提言(平成29年7月6日付け)に先立ち、国土地理院に問い合わせたところ、自治体からの情報提供があれば、優先的に地図修正の作業を行えるという趣旨の回答を得ているところですので、その後の経過を照会するものです。

(3)宇佐美地区の江戸城石丁場遺跡の既設説明看板について、「市民と行政が参画して作られた看板なので、史跡名以外の内容に支障がなければ、史跡名の名前を入れることで対応してまいりたい」とご回答いただいたいているところですが、その後どう対応したのでしょうか。(提言5)

宇佐美地区の江戸城石丁場遺跡の一部が国史跡に指定されてから既に2年半が経過することから、既設看板に史跡名を入れる具体的な方法につきまして、どのような方法を取るかは承知しておりませんが、速やかに処理すべきものと思慮致します。

なお、このことは「提言(9)」と関連致しますので、具体的な実施に際しましては協議させていただきたくお願い申し上げます。

(4)国史跡の見学コース上の案内標識及び説明看板の設置について、「見学者に対して緊急性が高いことから、暫定として簡易的なものを設置していきたいと考えている」とご回答をいただいているところですが、その後どうなりましたでしょうか。(提言9)

現在設置されている見学コース上の案内標識は、数年前に保存会が設置した極めて簡易的なもの(パソコンプリントした紙をラミネートコーティングしたものに紐を通して樹木に縛り付けたもの)です。いくつかのものは、既に脱落したり雨水が入ったりして見えにくくなっています。案内標識は国史跡の見学者にとって必要なものでありますので、速やかに設置すべきものと思慮致します。

また、現在いくつかのポイント(見どころ)には、説明看板が全くありませんので、案内者(ガイド)の付かない見学者はせっかく現地を訪れても、国史跡の重要性が伝わり難くなっています。説明看板につきましても速やかに設置すべきものと思慮致します。

(5)国史跡の保存・活用ための市民協働の方法を検討する予備的な方策の一つとして、関係団体、行政、史跡の保存あるいは活用に係る市内外の専門家等による公開のフォーラム開催の提言に対して、「市民協働が図られるよう検討してまいります。また、協働が図られるようご協力をお願いします」とのご回答をいただいているところですが、現在どのような検討をされているのでしょうか。(提言10)

平成30年度末までには、国史跡の「保存活用計画」を策定するため、専門家等による委員会が組織されると聞き及んでいるところですが、それに合わせて、国史跡の保存活用の関心を高める意味においても、また計画を一層充実させる意味においても、時宜を選んで当該フォーラムを開催することは、大変効果的であり重要であると思慮致します。

なお、当方としましては、協働が図られるように最大限の協力を惜しみません。

以上